

# キコニアレター

2024.3.1発行 No.35



鳥取県八頭町教育委員会 社会教育課

SHIRAIWA Yuichiro

白岩 雄一郎

## コウノトリを見守って、 見守られて（鳥取県八頭町）



5月に誕生した幼鳥たち  
(J0665♂・J0666♀・J0667♂・J0668♂)

キコニアレターNo.31の「2022年 繁殖トピックス」で紹介していただきましたが、八頭（やず）町とコウノトリとの関わりは2年目となりました。

### 経過

以前から町内でのコウノトリ目撃情報は寄せられており、2022年に電波塔で営巣が確認されました。産卵前に2度巣材を撤去しましたが、3度目の調査で産卵が確認されました。八頭町初のヒナ誕生、巣立ちを成功させるため、取材の際は「温かく見守ってください」を連呼してきました。コウノトリに関心を寄せる方は多く、町内外からの問い合わせや情報提供は今でもあります。

### 人工巣塔設置

人工巣塔を設置してもコウノトリが定着するかどうか分かりませんでした。少しでも確率を上げるため以前の電波塔から見える位置に巣塔を設置しました。そして、コウノトリが自身の匂いを探してたどり着くことを期待し、電波塔の巣材を移動して巣塔に被せました。

人工巣塔を設置した翌日にコウノトリが巣塔に立ち寄りましたが、懸念したとおり昨年の電波塔や電柱に巣作りを始めました。その都度、巣材を取り除いたところ、今春人工巣塔に定着し、ヒ

ナが4羽誕生しました。

人工巣塔の設置場所について否定的な意見が寄せられたり、電柱に作りかけた巣材を撤去するときには地域の方から反対意見もあつたりしましたが、結果的には人工巣塔に定着してくれたので事業としては成功したと思います。私にとって、まさに人工巣塔の新設は賭けでした。

### コウノトリと自然環境

今春から鳥取環境大学と共同で生息調査を開始しました。コウノトリが定着した自然豊かな環境を町民に再認識していただき、環境保全の大切さを周知することを目的としています。巣塔は八頭高等学校グラウンド敷地にあり、近くでは生徒たちが活発に部活動を行っています。危害を加える人間がいらないことに安心して定着してくれたのだと思いますが、このような共存の光景は不思議な感じです。

コウノトリはよく人間を見ています。「コウノトリを見守って」と言ってきましたが、ここの生徒たちは逆に見守られているのかもしれない。自然環境が失われれば、コウノトリは去っていくでしょう。コウノトリをきっかけに、私たちはより一層自然環境について考えなければなりません。

### コウノトリの個体数 (2023.12.31 時点)

#### 飼育

施設・拠点名	オス	メス	不明	計
兵庫県立コウノトリの郷公園	27	29	0	56
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	18	19	0	37
養父市伊佐拠点	0	0	0	0
計	45	48	0	93

#### 野外

カテゴリー	オス	メス	不明	計
兵庫県放鳥	19	14	0	33
兵庫県野外巣立ち	83	95	0	178
野生個体	1	1	0	2
他府県放鳥	11	7	0	18
他府県野外巣立ち等	69	71	0	140
計	183	188	0	371

# コウノトリと共に歩んだ32年



兵庫県立コウノトリの郷公園  
主任飼育員

FUNAKOSHI Minoru  
船越 稔

私は、1991年にコウノトリの飼育員として「特別天然記念物コウノトリ飼育場」（現在の「コウノトリの郷公園附属施設コウノトリ保護増殖センター」）で働き始めました。当時の飼育数は15羽、飼育下の繁殖に成功して3年目の年で、私は人工育雛（人が親鳥の代わりに雛を育てること）を任せられました。当時は孵化から30日まで泊まり込みで雛の世話をしていました。寝起きは、雛と同じ部屋でしたので、晩ご飯のラーメンをすすりながら、雛の寝顔を見ていたことを思い出します。大変な職場のように感じられるかも知れませんが、コウノトリの雛はとてもかわいく、日々成長していく様子を見ると苦になることはありませんでした。



雛の親代わりとして試行錯誤の日々

その後は、飼育下繁殖の全般を担当することとなりましたが、まだまだ繁殖事例が少なく、様々な方法を試行しながら取り組みました。例えば、ケージ内の巢上の天井にシートを張るだけで、卵の孵化率や雛の生存率が良くなりました。要因は、雨が巢内の卵や雛にかからず体温の低下を防いだためと考えられます。中でも苦労したのが孵卵器を使って卵を孵化させる技術です。コウノトリの卵の育成に合う孵卵条件である①卵の置き方（縦から横）、②孵卵温度（37.4℃）、③孵卵湿度（45%前後）を見つけるのに3年を要し、その間多くの方に指導いただきました。特に（株）昭和フランキの加山社長さん（当時）には、埼玉県から指導に来ていただき、その帰り際に「これだけ頑張っているのだから自信をもってやりなさい、大丈夫。」と励まされた時には思わず涙がこぼれました。

2004年より保護増殖センターからコウノトリの郷公園へ職場が変わり、コウノトリの野生復帰に取り組むこととなりました。野外へ放鳥するコウノトリの馴化訓練やハードリリース、郷公園外に放鳥施設を設けその施設から放鳥するソフトリリースです。これまでに、ハードリリース10回24羽、ソフトリリース17回35羽の放鳥に携わりました。特に2005年9月24日の初めての放鳥では、研究部長の池田啓さんから「この初放鳥は、コウノトリ野生復帰の幕開けと言えるもの。それにふさわしい放鳥にしてください。」と指示され、大きなプレッシャーの中、白い放鳥箱の扉を観音開きにしてコウノトリが飛び立っていく方法を考え、約3500人の方が見守る中、無事に5羽の放鳥を終えた時には、実に感無量でした。



5羽のコウノトリが豊岡の上空へ

2007年、野外で初めて繁殖に成功して以降は、野外で育った雛の足環装着を担当することとなりました。2012年までは、巣立ち後に幼鳥を捕獲し足環を装着していました。コウノトリのような大型鳥類を捕獲する罟はあまり事例がなく、コウノトリ用の捕獲罟（テント型罟、ネットランチャー）を作り捕獲して足環装着をしていました。捕獲罟は、コウノトリの活動場所である農地に設置することが多く、農家の方が活動する前に餌付けをする必要があり、朝5:30に出動し捕獲罟へ給餌していました。しかし、繁殖個所が増えるにつれて早朝に給餌することが困難となり、この方法での足環装着に限界を感じ、そこで、現在の巢内雛を捕獲する方法へ変更しました。その後は、他地域で繁殖した場合に活用できるようにマニュアル化し、現在多くの地域でこの方法により足環を装着しています。



孵化後43日頃に行う足環装着

2013年、野外コウノトリが全国的な広がりを見せる中、遺伝的多様性の維持・向上を目的として「コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル（IPPM-OWS）」の立ち上げに携わりました。IPPM-OWSでは、放鳥個体の選定に当たって遺伝的多様性を科学的に考慮しながら行う方法として、コンピューターでシミュレーションした結果をもとに選定を行う仕組みを作りました。また、任意団体であることから、活動資金がなく、助成金を確保するために各施設の仲間と相談しながら頑張ったことを思い出します。

私は飼育員の方に「コウノトリは話すことができないので、コウノトリの代弁者になってください。」と言っています。確かにコウノトリの気持ちは飼育員でもわかりませんが、最も身近な飼育員がコウノトリの意見を語らないと、人間の都合で物事が進むことが多く、コウノトリの気持ちを伝えるのが飼育員の大切な役目と考えています。

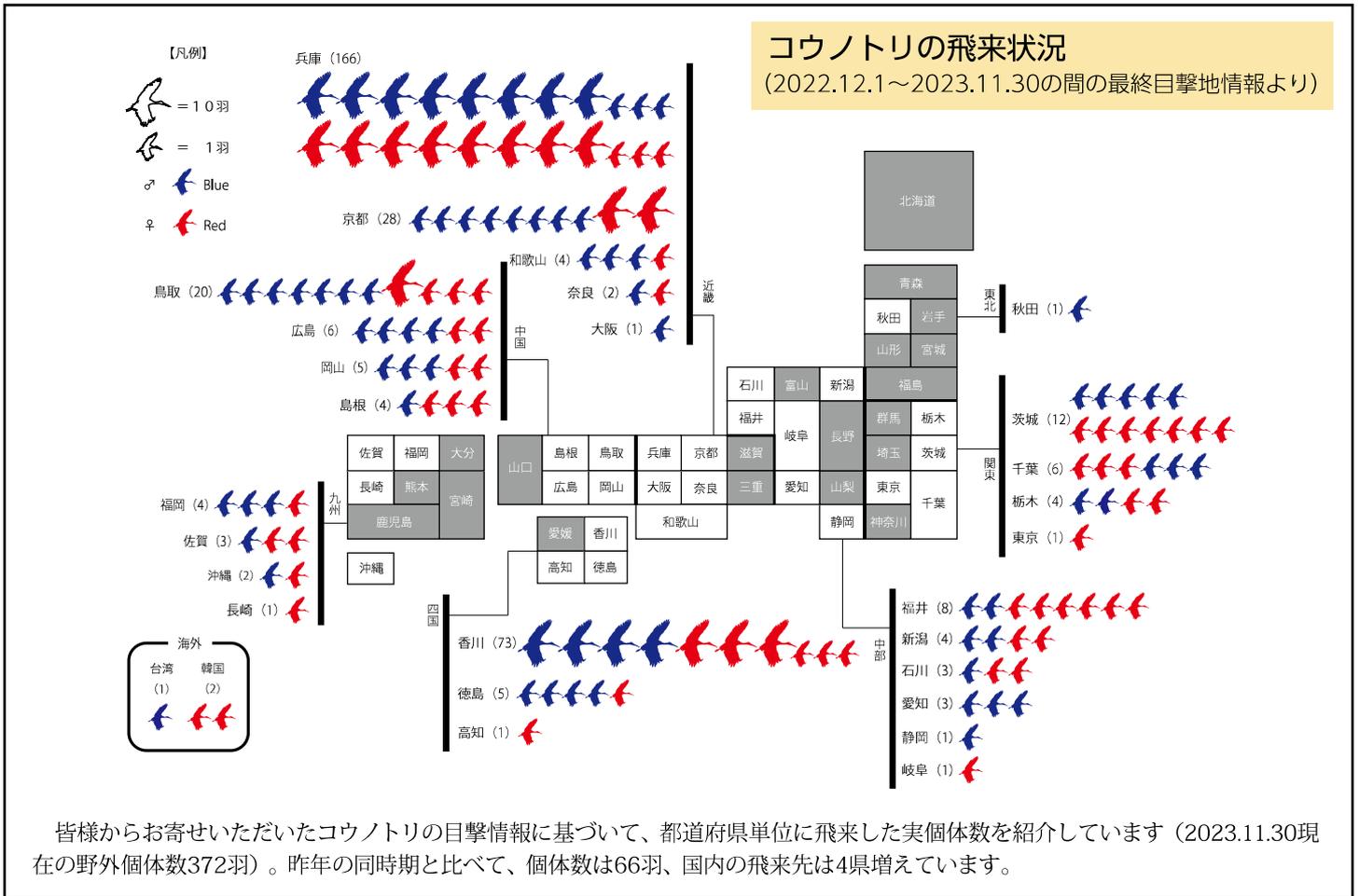
コウノトリは「特別天然記念物」に指定された国の財産ですが、それは地域の宝でもあります。私の生まれ育った豊岡市田鶴野地区にはコウノトリ保護増殖センターがあり、入り口に「特別天然記念物コウノトリ飼育場」と書かれた木柱を見て通学していました。まさかこの飼育場に勤務するとは予想もしませんでした。子供心に「コウノトリは地域の特別なもの」という思いはどこか根付いていました。私は今年度末で郷公園への派遣が終了し、豊岡市役所に帰ることとなります。長年にわたり、コウノトリの保護・発展に携われたことを幸せに感じるとともに、次の世代へバトンを渡せたことへの安堵感で一杯です。そして、次の世代が「地域の宝、コウノトリ」をどのように活用していくのか見守り続けたいと思います。

最後となりましたが、コウノトリとともに歩んだ32年間。飽きることなく、楽しい時を過ごさせていただきました。コウノトリたちへ、そしてご指導いただいた方々に心からお礼申し上げます。定年まであと一年頑張り、その後は家の農業もやってみたいと思います。いつの日か私の田んぼにコウノトリが降り立ち餌を啄ばむ、その姿に思いを馳せながら。

# 伊佐コウノトリ放鳥拠点での飼育を終了



コウノトリ個体群の豊岡盆地から但馬地域への拡大を目指し、養父市では2012年度から同市八鹿町伊佐地内に放鳥拠点を設けてペアの飼育を行ってきました。これまで18羽が放鳥され、その内7羽が野外でペアとなり、これらが巣立たせた個体は40羽、孫、ひ孫も生まれるなど大きな成果を上げています。今年度をもって伊佐放鳥拠点を閉鎖することに伴い、最後の飼育日となった11月24日、ここで暮らしていたAZペアは、隣接する養父市立伊佐小学校の児童、地元の皆様に見送られながら郷公園へと移送されました。



皆様からお寄せいただいたコウノトリの目撃情報に基づいて、都道府県単位に飛来した実個体数を紹介しています（2023.11.30現在の野外個体数372羽）。昨年の同時期と比べて、個体数は66羽、国内の飛来先は4県増えています。



この春は博士前期課程8名、博士後期課程1名の修了生を送り出す。博士は研究科3人目、これでジオ・エコ・ソシオの三分野すべて出揃った。学生諸君の頑張りに深く敬意を表したい。

おりしも研究科は今年、開設10周年を迎える。早くもというべきか、ようやくというべきか。初心に立ち返って地域資源とは何たるかを問い、次の10年へとつなげねばならない。Ars longa, vita brevis. (望鶴生)

# INFORMATION

## 2023「郷公園デー ～非公開エリア特別公開～」を実施しました

10/21(土)・22(日)

普段は非公開となっている飼育ゾーンや治療施設などを来園者の皆様へ公開しました。園内を巡りながらクイズとスタンプを集める「郷公園クイズラリー」、コウノトリの治療室と手術室をご覧いただきながら獣医師がコウノトリの救護や健康管理について解説する「コウノトリの診療所」、飼育員が飼育ゾーンを案内しながら解説を行う「コウノトリ野生復帰の舞台裏」、スタッフによる観察サイトでの「ミニレクチャー」や「砂絵づくり」を実施しました。



飼育ゾーンを飼育員がご案内



飼育機材や餌の解説



観察サイトでのミニレクチャー



獣医師による救護や治療のお話



クイズラリーのスタンプポイント



人気の砂絵コーナー

《ふるさとひょうご寄附金》  
ふるさと納税

コウノトリ野生復帰プロジェクトを応援してください。

コウノトリの郷公園では、全国の皆さまのご協力を得ながらコウノトリの保護増殖と野生復帰に取り組んできました。しかし、まだ道半ばの状態にあり、特に昨今では飛来地や繁殖地が全国的に拡大したことで、当園の技術的支援の必要性が高まっています。また、野外コウノトリの増加に伴い、事故等による救護個体の増加や近親婚の発生など新たな課題への対応や、遺伝的な多様性確保のための国内外の施設とのさらなる連携が重要となってきています。

これらの取り組みを進めていくためにも本プロジェクトへのご賛同・ご支援をお願いいたします。本プロジェクトの詳しい内容は、ホームページに掲載しています。



申込方法

1 ふるさと納税ポータルサイトによる申込み

ふるさとチョイス



楽天ふるさと納税

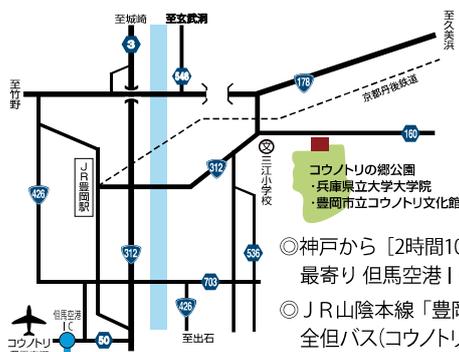


または

2 寄附申出書による申込み



## ACCESS!



- ◎神戸から [2時間10分] 姫路から [1時間45分] 最寄り 但馬空港ICから20分
- ◎JR山陰本線「豊岡駅」から4.5km 全但バス(コウノトリの郷公園・法花寺・下の宮行き)
- ◎コウノトリ但馬空港から12km

## 編集後記

郷公園で実施する主なイベントでは、参加者の皆様へオリジナル缶バッジをプレゼントしています。手作りで稚拙なバッジですが、幸いにもお客様からは「来園の記念になった」とご好評をいただいています。

新年度のイベントについても、皆様からのご意見や感想をもとに、内容を充実させて計画中です。まずゴールデンウィークには、コウノトリの診療所の公開、非公開エリアの特別ガイドウォーク、親子でえさやり体験などを予定しています。くわしくは、事前にホームページやSNSでお知らせしますので、ぜひチェックしてみてください。

(自然解説員 白岩雅之)



兵庫県立コウノトリの郷公園

Hyogo Park of the Oriental White Stork

兵庫県豊岡市祥雲寺 128 tel: 0796-23-5666 fax: 0796-23-6538

開園時間: 9:00~17:00

休園日: 毎週月曜日

(休日に当たるときはその翌日)

12月28日~1月4日

e-mail: kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp

ホームページ: <https://satokouen.jp/>

facebookページ: <https://www.facebook.com/satokouen/>

インスタグラム: [https://www.instagram.com/hyogo\\_satokouen/](https://www.instagram.com/hyogo_satokouen/)



HP



FB



インスタグラム